

# 未来に生きる子どもたちのために 核兵器のない世界をめざして私たちにできること



日時 2015年12月 3日(木) 10:00~12:00  
講師 池田 香代子さん(ドイツ文学翻訳家)  
会場 中野サンプラザ 7階 研修室10  
参加人数 63名  
主催 東京都生協連 平和活動担当者連絡会



司会:パルシステム東京  
佐藤奈穂美理事

## 当日の流れ

10:00~ 開会、あいさつ 竹内 誠(東京都生協連専務理事)  
10:05~ 講演 池田 香代子さん(ドイツ文学翻訳家)  
11:20~ NPT再検討会議参加報告&東友会相談事業報告  
家島 昌志さん(東友会)  
堀場 和子さん(東友会)  
平山 雪野さん(おりづるの子)  
村田 未知子さん(東友会)  
11:55 閉会



東京都生協連  
竹内専務理事

世界にはまだ1万7300発もの核兵器が存在しています。核兵器の非人道性が改めて注目され、「人道に反する兵器」であることへの認識は深まっても、核保有国は「抑止力」の考え方から脱却することができず、愚かで破滅的な兵器を持ち続けています。被爆70年という節目の今年、ニューヨークで開催されたNPT(核不拡散条約)再検討会議の結果は最終文書案を採択できないまま閉幕しました。今年度のピースセミナーは「核兵器のない世界をめざして私たちにできること」をテーマとし、翻訳家としても活躍し、平和活動家である池田香代子さんをお迎えして様々な視点からお話を伺いました。また後半は、今年NPT(核不拡散条約)再検討会議に参加された方々の視線を通して、世界の動きや現地で感じたことを共有したり、東友会の相談事業の報告を映像も交えながらお聞きしました。これらを通して、未来に生きる子どもたちのために私たちに何ができるのかを考えました。

## 池田香代子さん講演会



まずは、池田香代子さんの自己紹介から。巷の話題などにも触れ、ユーモアを交えながら和やかに始まりました。

2001年9月11日に起こった大惨事。それを機にアメリカがアフガニスタンに侵攻したことを受けて『世界がもし100人の村だったら』を出版。その印税を募金されたお話がありました。2009年に国連でオバマ大統領が議長を務めた核廃絶対談に向けて当時の首相に官邸で会った際に「核兵器禁止条約にも触れて下さい」と伝えたエピソードや2010年のNPT再検討会議のお話なども詳しくしてくださいました。核保有国と非保有国とでは核に対する意識が違う。保有国は核を「良いもの」と思っている、日本は核兵器は悪いものとなっているはずなのに、核兵器廃絶に関してはまだまだ意識が低いという事実も知ることができました。また、資料を用いて原爆は何故広島と長崎に落とされたのかというお話もしてくださいました。最後には、講演の中で紹介された「新・戦争のつくりかた」という絵本の一部を池田さんが優しい口調で朗読してくださり、それがとてもみんなの心に響いていました。

「『核は非人道的』『核兵器廃絶』を言い続けていきたい」という池田さんの言葉にうなづく人も多い中、講演会は終了しました。



池田香代子さんの書籍の紹介や販売もありました



講演の中で紹介されました

この他にもたくさんの書籍がありました



書籍販売の様子



### NPT再検討会議参加者報告 & 東友会相談事業報告

今年、NPT再検討会議に参加された東友会の家島昌志さん、堀場和子さん、東京被爆二世の会「おりづるの子」の平山雪野さんから現地の様子や感想などをお聞きしました。



国連ロビーで原爆展を開催するにあたり、被爆者から寄付を募ったが集まらなかった。しかし、生協から寄付があり、実現することができた。核の実態を知らない人が多いのでこれからも証言を伝えていくことは必要だ。

東友会の家島さんと村田さんからは、東友会に寄せられた相談内容を映像を用いて具体的にお話ししていただきました。今まで、被爆者本人から原爆投下当日の体験談を聞くことはあっても、その後その方たちがどんな人生を送ってきたか、また、その家族もどれだけ辛く苦しい思いをしてきたかを知る機会はありませんでした。それだけに、今回のお話は衝撃的で胸が苦しくなりました。改めて、二度と戦争を起こしてはいけない、戦争の苦しみ、悲しみを語り継いでいく大切さを感じました。



家島昌志さん

ニューヨークの中学校で核兵器について話をしてきたが、子どもたちはまだ核兵器についての教育を受けていなかったのが今回伝える事ができて良かった。これからも伝えていきたい。



堀場和子さん



平山雪野さん

父が被爆者。今までは父から聞いていた被爆の体験談を語ったことが無かった。生の体験談に比べたら説得力がないのでは？子どもたちにこんな話をしても大丈夫だろうか？と心配したが、子どもたちはしっかり話を聞いてくれた。未来に生きる子どもたちのために、被爆の苦しみ、実相をしっかり伝えていきたい。子どもたちにも真摯に向かい合えば伝わる。



村田未知子さん



### アンケートより

- 子どもの頃、戦争があった世代の体験、間接的に見聞きした体験談等しっかり次世代に伝えていきたい。
- 原爆を落とされた唯一の国として、日本がもっと世界に核の廃止や平和を呼びかけないと、と思いました。個人としてできることは少ないですが、平和について考える良い機会になりました。核や平和について調べたり、本を読んだりしようと思います。
- 柔らかい口調で親しみやすくわかりやすい内容でした。しっかり見つめて「市民の力」の一人になりたいと思いました。

- 東友会の方々の取り組み、被爆者の方々がいかに原爆によって苦しめられたのか、とても辛く思いました。ですが、その長い取り組みによって新しい世代が育っていることを心強く思いました。
- 講演内容は知らなかった細かい情報もあり、興味深く最後まで聞くことが出来ました。NPT参加者報告は胸が痛くなる思いでお聞きしました。また東京都内在住の方々の事例をお聞きし、改めて長い闘いの日々を過ごされている事を知り、一日も早く念願が叶う事を願っております。